

公表

事業所における自己評価総括表

令和6年12月

○事業所名	社会福祉法人桂堂会 児童発達支援センター 桂堂学園		
○保護者評価実施期間	令和6年 12月 1日		～ 令和6年 12月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数) 1
○従業者評価実施期間	令和6年 12月 1日		～ 令和6年 12月 16日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○訪問先施設評価実施期間	令和6年 12月 23日		～ 令和6年 12月 28日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数) 1
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年 12月 28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・訪問支援員が保育経験のキャリアがあり、教育保育施設の状況を理解した上で助言している。	・訪問先の教育保育施設の方針を考慮した上で、その施設でできる内容を具体的に助言する。	・現在、療育部でホーム担任をしている職員も、専門性を身に付けて訪問支援員として活動できるように育成していく。
2	・毎回、複数の職員で訪問している為、多視点から観察できて、カンファレンスも充実したものとなる。	・継続的に訪問を重ねている施設については、訪問以外にも電話相談や助言をして、支援の効果を高められるように対応している。	・今後も複数での訪問を続け、インクルーシブ保育に役立つ情報も提供していく。 「困った子への対応」「パニック対応」等の参考資料を配布。
3	・訪問の前に、前回の振り返りと次の訪問の相談内容をあらかじめFAXで受け取り、訪問時に観察と重ねて適切な提案をしていく。	・カンファレンスの時間を有意義な検討の場とする為に、保育現場で確実に実践できる内容を提案する。	・こども園側から訪問日の急な変更があった場合、可能な限り、予定変更に応じられる態勢を整えていく。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・現在、訪問支援員として活動できる職員は3名。その他の療育現場の職員は保育園勤務の経験がない為、こども園の保育環境を考慮した上での助言は難しいと考える。	・ホーム担当職員は契約児の療育のことで精一杯。園外で指導助言できる程には専門性が身につけていない。	・訪問支援の経験を積んだ職員にOJTとして未経験の職員が同行して、経験を積む。
2	・当施設内の行事が多く、日常の療育と訪問支援の兼務が時間的に厳しい様子である。	・訪問支援員は療育部内でも主力的人材であり、他の職員に現場を任せられない。 ・療育の現場職員の育成が必要。	・療育部職員の専門性を向上させ、訪問支援員の仕事に徹することができようになる。
3			